



Victorian Certificate of Education

2012

SUPERVISOR TO ATTACH PROCESSING LABEL HERE

STUDENT NUMBER

Letter

Figures

Words

JAPANESE

FIRST LANGUAGE

Written examination

Friday 2 November 2012

Reading time: 3.00 pm to 3.15 pm (15 minutes)

Writing time: 3.15 pm to 5.15 pm (2 hours)

QUESTION AND ANSWER BOOK

Structure of book

<i>Section</i>	<i>Number of questions</i>	<i>Number of questions to be answered</i>	<i>Number of marks</i>	<i>Suggested times (minutes)</i>
1	1	1	25	30
2	1	1	30	40
3	5	1	25	50
			Total 80	120

- Students are permitted to bring into the examination room: pens, pencils, highlighters, erasers, sharpeners, rulers and any printed monolingual and/or bilingual dictionary in one or two separate volumes. Dictionaries may be consulted during the reading time and also during the examination.
- Students are NOT permitted to bring into the examination room: blank sheets of paper and/or white out liquid/tape.
- No calculator is allowed in this examination.

Materials supplied

- Question and answer book of 18 pages, including **Assessment criteria** on page 18.

Instructions

- Write your **student number** in the space provided above on this page.
- Write all your answers in the spaces provided in this question and answer book. The spaces provided give you an idea of how much you should write.

At the end of the examination

- Hand in this question and answer book at the end of the examination.

Students are NOT permitted to bring mobile phones and/or any other unauthorised electronic devices into the examination room.

This page is blank

This page is blank

TURN OVER

SECTION 1 – Listening and responding**Instructions for Section 1**

You will hear one text. It will be played twice. There will be a pause of approximately five minutes between the first and second playings of the text. You may make notes at any time.

Listen carefully to the text and then answer the questions in **JAPANESE**.

TEXT 1**Question 1**

- a. 教育新番組「科学でGO」の目的と、第一回のテーマは何か。

(目的) _____

(テーマ) _____

- b. 日本人科学者が受賞したノーベル賞の種類と、受賞者の名前(ひらがなでも可)を書き入れなさい。

1. _____

2. _____

- c. 三人の科学者たちがそろって強調していることは何か。それを一言で書き表し、その意味をテキストから一文で書きなさい。そして、なぜそれが大切かを、三人の主張を踏まえて説明しなさい。

強調していること

その意味

説明

- d. 岡崎教授が気づいた、三人の科学者に共通する『一見相反する二つの要素』とは何か。

1. _____

2. _____

You may make notes
in this space.

SECTION 2 – Reading and responding

Instructions for Section 2

Read the two texts and then answer the question in 900–1100 *ji* in JAPANESE.

TEXT 2

日本のペット事情

ペットブームは、1980年から90年ごろまでのバブル時代に始まり、それに関連した種々のペット産業が生まれた。ペットフードから、ペット保険、専用の医療施設、訓練サービスなどのほか、ペットファッションからシッターサービス、ペット用温泉まである。世界には飢えた子どもが大勢いる中、犬に高価な化学療法を受けさせる飼い主がいることについては批判もある。

厚生労働省の調査によれば、1990年の犬の登録数は、約389万頭だったが、2005年には、648万頭に増加。ペットフード工業会の2006年の調査では、犬の飼育数約1200万頭、猫約960万頭で、犬と猫の合計は2000万頭以上になる。これは、総務省が発表した、2007年4月1日現在の15歳以下の子どもの数1738万人を上回る。

ペットブームはなぜ起こったのか？少子化、核家族化、外で働く母親の増加、一人暮らしや施設に入る高齢者の増加などが考えられるが、家族を構成するメンバーの心のつながりかたが薄れてきたことが大きいのではないだろうか。

養老孟司氏は、ライフ・シippo・プロジェクト*の第一回シンポジウムで、「現代の日本人は、自然から遠ざかっています。作物を育てた経験がない人が増え、『土から生まれて土へ還る』という実感がないんですね。それでも何かが抜け落ちていると言う不安感はある。それを満たすものがペットなんです。忘れてきたものを思い出させてくれる存在であり、言葉の通じない動物の相手をする事で人は癒される」と語った。

また、東京学芸大学の山田昌弘教授は、「ほとんどの人が結婚でき、豊かな家族生活を築くことを目指していた時代なら、夫は仕事、妻は家事と子育てに忙しく、ペットが入りこむ余地はなかった。家を手に入れたり、車や家電製品を揃え、子どもを育てたりすることにお金とエネルギーをかけるので精一杯だったからだ。自分の働きで豊かな生活を築いていることで、家族から必要とされている自分を実感していたのだ。しかし、一度豊かな家族生活を手にしてしまうと、家族の絆を実感したいと言う欲求が表に出てきて、現実にはそれを実感する機会が少ないことに不満を持ち始める。理想的な家族への欲求と、現実の家族への不満、そのギャップに入り込んできたのが家族ペットだ」と述べた。

現在、犬は屋内で飼われることが多く、『愛玩動物』から、今では『家族の一員』になっている。飼われる犬も、抱かれるのが好きな小型犬に人気がある。2000年以降、首都圏を中心にペットが飼育できる新築マンションが増え、2007年にはその割合が80%を超えた。

犬に限らずペットの癒し効果は大きい。ペットをなでていると血圧が下がる、認知症患者の気分を安定させるなど、動物介護療法(アニマルセラピー)が注目されている。北九州小倉市の聖ヨハネ病院にはドナルドという特別な訓練を受けたボランティア犬が飼われていて、患者の大きな慰めになっている。

You may make notes in this space.

しかし、その一方で、トラブルも増えている。その三大理由は、『吠え声、悪臭／不衛生、発毛／飛び毛』である。ペットをしつける、避妊手術をする、行方不明になった場合に持ち主が分かるように、マイクロチップをつけるなど、責任がある飼いが求められている。また、利益本位の悪質なブリーダーや、しつけをしなかったために手に負えなくなった犬・猫を虐待したり捨てたりする者を取り締まる政策も必要である。その一つとして、動物愛護管理制度の見直しが、真剣に考えられるようになった。ライフ・シippo・プロジェクト* もその一つである。

(西日本新聞:ラブラドル犬の訪問診療 2008年1月21日)

* ライフ・シippo・プロジェクト – 全ての人とペットが幸せに暮らせる社会を目指す運動。

(AERA 2011年3月7日)

You may make notes
in this space.

TEXT 3

ペットブームが示すもの

大変なペットブームだ。犬を飼っている人は1000万人、猫を飼っている人は800万人といわれている。(注:この数字は1990年代のもの)単純に計算すると、どこの家でも犬か猫を家族の一員としている時代といえそうだ。

私は、あまりペット好きではなく、犬も猫も飼っていない。だが、私の子どもたちは、どの家も犬を飼っていて、猫かわいがりならぬ犬かわいがりをしている。

それはいいのだ。

けれど、あまりにベタベタとのめり込んだようにペットをかわいがる一部の風潮には、職業柄か、社会の病理を見てしまう。

実際、ペトロス* の患者さんの来院が増えている。(略)

犬や猫は、自分本位に愛することが出来る。犬や猫にも感情はあるけれど、人間のほうが絶対的に有利なのだ。ペットの気持ちを斟酌する(注:推量する)としても、しよせんは人間の都合である。

極端な言い方だが、絶対者がもたらす慈悲と、対等な関係での思いやりとは違うのだ。ペットブームは、人間同士の対等なつきあい方が出来なくなっている象徴なのではないだろうか。

(さいとうしげた 斎藤茂太著「いい言葉は、いい人生をつくる」47, 48ページ)

* ペトロス – ここでは、行方不明になってペットを失ったと、精神科である筆者の病院を訪れる患者を指す。

Question 2

ペットブームは、日本であなたが住んでいる地域にも起こりました。そのため、ペットブームに関連した問題を話し合う、地域住民の集会が開かれます。あなたはこの集会で意見を発表します。

スピーチの題は『ペットを賢く飼おう』です。テキスト2と3の内容に触れながら、ペットブームの原因とその結果、ペットを飼うことの利点と問題点及びその解決策を論じた上で、『ペットブームは何を象徴していると思うか』について自分の考えを述べます。そのスピーチの原稿を書きなさい。(字数:900–1100字)

Total 30 marks

SECTION 3 – Writing in Japanese**Instructions for Section 3**

Answer **one** question in 1000–1200 *ji* in **JAPANESE**.

Space is provided on the following page to make notes.

Question 3

多くの人が情報手段としてフェイスブックを利用しています。このフェイスブックを使うことにはどんないい点がありますか。またどんな問題点がありますか。新聞の投稿欄に投稿する原稿を書きなさい。

OR

Question 4

日本の円高が日本社会と生活に与える影響を、利点・問題点の両方について述べるレポートを書きなさい。これは、高校の科目の宿題として提出するものです。

OR

Question 5

あなたの日本にいる親戚のおじさんが、高校3年生の子供がオーストラリアの大学に留学したがっているが、行かせるかどうか迷っていると、あなたに連絡してきました。オーストラリアの高校で学び、オーストラリアの大学か日本の大学に行くことを検討しているあなたの立場から、オーストラリアの大学に留学することのプラス面、マイナス面について説明する手紙を書きなさい。

OR

Question 6

あなたとあなたの高校の友だちは、学校でのプロジェクトの一環として、コンビニエンスストアの商品の研究をし、高校生に爆発的に売れそうな商品を開発しました。その商品が苦労の末に完成した日と、大きなコンビニエンスストアでその商品が実際に売り出された日の二日分の日記を書きなさい。

OR

Question 7

ある朝、子どもが道端に落ちているかばんを見つけました。そこから始まる物語を書きなさい。それは高校生小説コンテストに出すためのものです。

Total 25 marks

You may make notes in this space.

Assessment criteria

Section 1: Listening and responding

- the capacity to understand general and specific aspects of texts
- the capacity to convey information accurately and appropriately

Section 2: Reading and responding

- the capacity to identify and synthesise relevant information and ideas from the texts
- appropriateness of structure and sequence
- accuracy, range and appropriateness of vocabulary and grammar (including punctuation and, where relevant, script)

Section 3: Writing in Japanese

- relevance, breadth and depth of content
- appropriateness of structure and sequence
- accuracy of vocabulary and grammar (including punctuation and, where relevant, script)
- range and appropriateness of vocabulary and grammar